

ジャパンオープンチアリーディング選手権 2014
兼日本代表チーム選考会
チームチア部門 ルールと規則

I. 一般ルール

1. 全てのチームは有資格の監督・アドバイザー・コーチの監督を受けていること
2. 全ての監督・アドバイザー・コーチは不急の事態に備えておくこと

II. 運営上の質問について

A. ルールと手続き

ルールや手続きに関する質問はチームの監督またはコーチからのみ大会運営側に問い合わせること
 大会での演技に先立って済ませること

B. 演技

演技に関する質問は演技、また大会終了後速やかに大会運営側に行うこと

III. スポーツマンシップ

全ての参加者は、イベントを通してスポーツマンシップにのっとり行動する事。各チームの監督・指導者・コーチは、各選手、コーチ、父兄およびその他の関係者がしかるべく行動するよう監督する。スポーツマンシップに著しく反する行為は参加資格剥奪の対象となる

IV. 演技の中断

A. 不測の事態

1. 大会施設、設備の不備、その他避けがたい要因で演技が中断された場合は、大会役員の判断で演技を止めることができる
2. 演技は最初からやり直しができるが、ジャッジは中断した箇所から行う。中断の程度や影響は大会役員が判断する
3. もしチームが再演技をしても完全な演技ができなかったとすれば、より低い点数しか獲得できないことになる

B. チーム側の不備

1. チームの不備で演技が中断した場合は、チームは演技を続けるか棄権しなくてはならない
2. チームがもう一度演技できるかどうかは大会役員が判断する。役員が再演技を選択した場合は演技を最初から行えるが、ジャッジは中断したところから行う
3. チームが再演技をしても完全な演技ができなかったとすれば、より低い点数しか獲得できないこととなる

C. 怪我

1. 怪我による演技の中断を求めることができるのは a)大会役員 b)チーム関係者・コーチ c) 怪我をした本人
2. チームが再度演技できるかどうかは大会役員が判断する。再演技が許可された場合でも、スケジュールのどこで演技するかを決めるのは大会役員である。演技を最初から行えるが、ジャッジは中断したところから行う
3. チームが再演技をしても完全な演技ができない場合、より低い点数を獲得することとなる
4. 怪我をした選手は以下のものがなくては演技に戻ることはできない
 - a. 第1にチームの医療関係者、第2に保護者、そしてチームコーチや関係者からの承諾
 - b. もしもチームの医療関係者がいない場合は保護者または法定後見人からの承諾

V. ルールの解釈

ルールや規則の判断は大会に関係することであればルール委員会から発表される。ルール委員会は大会の精神や目標に沿った判断を決定していく。ルール委員会は大会役員、ヘッドジャッジ、大会関係者で構成される

VI. 資格はく奪

大会が設ける「ルールと規則」が守れないチームは賞や順位がはく奪されることもある。また次年の参加資格も失うこともある

VII. 共通安全規定

1. 全ての選手は有資格の監督、コーチの監督を受けること
2. コーチは技の向上に先立ってコーチという任務への熟達が必要である。コーチは選手やチームの技術レベルに適した内容が実践できるようにすること
3. 全てのチーム運営者、監督、コーチは不急の事態に備えておくこと
4. 選手もコーチも、十分な監督や安全な演技を行う能力を妨げるようなアルコール、麻薬、筋肉増強剤、処方薬の影響下にある場合は、練習や演技を行ってはならない
5. 選手はいつでも適正な場所で練習、演技すること。技術的なスキル（スタント、ピラミッド、トス、タンブリング）はコンクリート、濡れている場所、平らでない場所、障害物のある場所で行わないこと
6. 競技の間は柔らかいソールの靴を着用する。社交ダンスシューズ、ブーツ、体操シューズ（または同等品）は禁止
7. 耳、鼻、舌、へそまたはフェイシャルリング、ブレスレット、ネックレス、ユニフォームにつけるピンは禁止。ジュエリーは外すかテープでとめること。例外：医療用 ID タグ、ブレスレット。ユニフォームや皮膚にしっかりとつけている状態のラインストーンは可
8. (注：スタントにおいて投げの際などの場面で)動作の力を増強させるような設備の使用は禁止
例外：スプリングフロア
9. 旗、バナー、サインボード、ポンポン、メガフォン、布のみが使用可能な道具。竿や同等のもので支持して使用する道具はスタントやタンブリングでは使用してはならない。道具を投げるときは危険のないようにする（例：固いサインをスタントからマットを横切って投げることは違反にあたることもある）
ユニフォームの一部を体から外して視覚効果に使用した場合は道具とみなされる
10. 固く曲がらない素材のもの、とがった角のあるものは当てものでカバーすること
（当てものとは選手と周囲の人を傷つけないようにするためのもの）
11. レベルグリッドにおいて、当該のレベルはそれより下のレベルのスキルを包含する
12. 望ましいスポッターとは、チームメンバーであり正しいスポッティングテクニックを学んでいること
13. ひざ、尻、腿、体の前面、背中での着地、ジャンプ、スタントや逆さ姿勢からのスプリット着地は、着地の衝撃を和らげるため手や足に体重の大部分が乗っていなければ不可
14. 演技の開始時、選手の片足、片手、体の一部が演技フロアに接していること
15. 競技者は演技の間はそのチームに残っていなければならない。演技の最中に選手を入れ替えることはできない
16. 窒息を防ぐため、選手は練習でも大会演技時でもガム、キャンディー、咳止めドロップなどの食べるもの、または食べ物以外でも、口に入れてはいけけない